野党 生き残り模索

みんなの党が解党を決めた。野党は生き残りに必死だが、自民党の「一強」体制に対抗するために不可欠な野党再編は難航している。民主党と維新の党の候補者調整がどこまで広がるかが最大のポイントだが、思うように進んでいない。（政治部 西山幸太郎、加藤雅治、関連記事1面）

みんな 議員他党へ 新党も

みんなの党の両院議員総会に出席し、拡散する渡辺前代表（2列目右）ら（19日午後、衆院第1議員会館で）＝大原一郎撮影

解党を議題に国会内で開かれたみんなの党の両院議員総会は、怒号が飛び交い、騒然となった。地方議員約10人が乱入する混乱も起き、10分近く、開会できない事態に陥った。

「地方議員の声を聞け」

解党に反対する渡辺喜美前代表は腕組みをして座りながら、声を張り上げた。

総会が始まると、渡辺氏が「みんなの党は大変、うまくいっているんだ。なんで、解党なんかするんだ」と、執行部を批判した。これに対し、松沢成文参院議員は「政党として体をなさない。これだけ路線が違うと、政策を訴えられない」と解党を支持した。

自民党との連携を目指す渡辺氏の路線と、野党再編を重視する浅尾代表の路線をめぐる対立が党勢を低迷させ、浅尾氏は立て直しができなかった。

最終的に総会議長を除いた衆院議員7人、参院議員12人が挙手で採決した結果、「賛成13」「反対6」の賛成多数で、解党が決まった。

175人の地方議員と2千数百人の党員には正式な連絡がないまま、自民、民主の2大政党に対抗する狙いから旗揚げした第3極のパイオニアが瓦解した瞬間だった。

国会議員20人は今後、いったん無所属になった後、他の野党にばらばらに移る見通しだ。浅尾代表、水野幹事長ら数人は民主党入りを模索している。佐藤正夫衆院議員は、民主、維新両党の議員らとの新党を目指す。松沢氏と和田政宗参院議員も新党結成を探っているが、政党要件を満たす5人以上の国会議員が集まらない場合、次世代の党に移る可能性がある。

渡辺氏は、新党の結成に動く見込みだ。賛同する可能性がある議員として、渡辺美知太郎、薬師寺道代、井上義行各参院議員らの名前が挙がっている。

浅尾執行部は、政党交付金など党がため資金十数億円を分配できる「分党」をあえて見送った。今回、解党を選んだことで、政党交付金は国庫に返納することになる。離合集散による「カネ目当て」との批判を避けるためだ。

解党には、野党再編を攻撃する渡辺氏の政治活動を抑え込む狙いもある。渡辺氏は分党を浅尾氏に迫っていた。浅尾氏は渡辺氏の復権を阻むことを優先した。

総務相への解党届を衆院選公示日の12月2日にしたのは、「みんなの党」の党名を渡辺氏の新党が使えないようにするためだ。

みんなの党が解党に追い込まれたのは、浅尾氏が幅広い野党勢力を結集する再編を探ったものの、党内をまとめきれず、八方ふさがりとなったことが大きい。

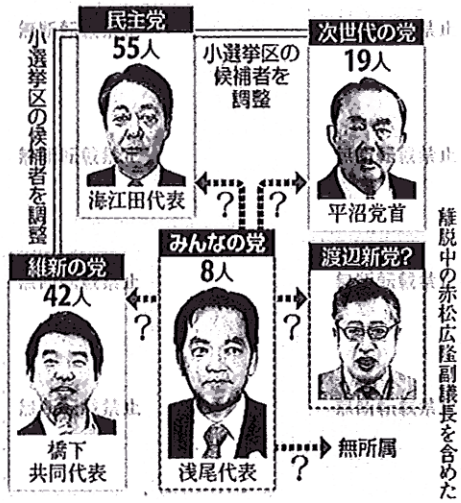
しかし、将来の再編に意欲を見せる浅尾氏は総会後、涙を浮かべ、こう語った。

「有為な人材が改革の旗の下に当選できる枠組みを作りたい。改革勢力の結集を果たすことが責任だ」

みんなの党の歩み

2009年	8月8日	渡辺喜美氏、江田憲司氏、浅尾慶一郎氏ら5人で結党を表明
	30日	衆院選で5議席獲得
10年	7月11日	参院選で10議席
12年	12月16日	衆院選で18議席
13年	7月21日	参院選で8議席
	11月26日	特定秘密保護法の衆院本会議採決で賛成。江田氏ら3氏が造反
	12月6日	参院本会議採決でも3氏が造反
	18日	党を離れた江田氏らが15人で結いの党を結成
14年	4月7日	渡辺代表が8億円の借り入れ問題で代表を辞任
	11日	浅尾氏が新代表に
	9月17日	両院議員懇談会で、野党再編を掲げる浅尾代表と、「維与党」路線を主張する渡辺前代表が対立
	11月19日	両院議員総会で解党を決定

主な野党の構図



※人数は衆院議員。民主党には、会派離脱中の赤松広隆副議長を含めた

民・維 候補者調整進まず

民主党と維新の党など、自民党に対抗するため、小選挙区の候補者の一本化を急いでいる。2012年の前回衆院選で非自民候補が乱立し、自民党の独り勝ちを許した反省からだ。

民主党の安住淳国会対策委員長代理は15日、仙台市内で、維新の党の林宙紀衆院議員（比例東北選出。当選1回）に会った。林氏は衆院選で宮城1区からの出馬を予定。しかし、ここには民主党現職が立候補予定だ。安住氏は林氏に頭を下げ、同2区への「国替え」を要請した。林氏は、2区で簡単に勝てるとは思えない」と渋ったが、両党の執行部の調整もあって国替えを決めた。

宮城1区は、民主と維新の現職の「候補者一本化」が成功した唯一の例で、その他の選挙区では競合の解消は難航している。

民主党は18日、新たに小選挙区の公認候補予定者14人を決めたが、この中には、既に維新の候補が決まっている選挙区が三つあった。民主党執行部としては、維新との競合区が増えるのは避けたいところだったが、この3選挙区に民主党から出馬を予定するのはいずれもベテランの前議員らで、「意向を無視するわけにはいかなかった」（民主党幹部）という。両党が競合する選挙区は19日現在、33選挙区に上っている。

維新では、民主に対するいらだちの声も出始めている。維新の幹部は19日、民主党幹部に電話で「うちは真剣にやっているんだ。民主党も、本気で考えてくれないか」と述べ、候補者調整で譲歩するよう求めた。江田共同代表は「（民主党との）競合も辞さずだ。無理やり（候補者を）降ろすということはやらない」と語り、調整がご破算になる可能性に言及している。

千葉8区では、維新が元民主党議員の擁立を検討。これに民主党千葉県連が反発し、対抗馬を立てることも辞さない構えだ。維新の地盤が強い大阪は、候補者調整の対象ですらない。両党とも、譲歩の難しさを痛感し始めている。

民主党は、次世代の党とも候補者を調整しており、次世代の広島3区の現職の同4区への「国替え」が決まった。ただ、両党の調整も一部にとどまっている。

民主党内では、新党を模索する議員もいる。前原誠司元代表と長島昭久元防衛副大臣らは19日、国会内で海江田代表に会い、「多くの仲間を救うためにも、新党を作るべきだ」と訴えたが、海江田氏は「民主党で戦いたい」と素っ気なかった。民主党幹部は「新党も、野党候補の一本化もできないまま選挙戦に突入したら、前回選の二の舞いになる」と焦りを隠さない。

衆院選スキャナー SCANNER